

(2014年10月22日にダウンロード)

ローゼンハン実験

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

移動: [案内](#)、[検索](#)

実験が行われた病院のひとつ、セント・エリザベス病院 ([Saint Elizabeth's psychiatric hospital](#)) [ワシントン D.C.](#)

ローゼンハン実験 (Rosenhan experiment) は、[心理学者デイビッド・ローゼンハン](#)によって行われた[精神疾患の診断](#)の有効性についての[実験](#)であり、[1973年雑誌サイエンス](#)に『[狂気の場所の正気](#)の存在 (“On being sane in insane places”)』の題名で掲載^[1]。この実験は、精神疾患の診断について重要な研究と見做されている^[2]

目次

- [1 概要](#)
- [2 類似する実験](#)
- [3 関連項目](#)
- [4 参照](#)
- [5 外部リンク](#)

概要[編集]

この実験は 2 部で構成される。

1: 精神疾患の診断を受けていない疑似患者 (3 名の女性、5 名の男性) は幻聴があるふりをして、アメリカ合衆国内 5 州に位置する 12 の精神病院の入院許可を得る。全疑似患者は精神疾患があると診断される。入院時、疑似患者は幻聴は無くなったと病院に伝える。全疑似患者は病院によって、精神疾患 (8 名中 7 名は、[統合失調症](#)の回復期である

と診断を受ける)があることを認めること、抗精神病薬の服用を条件に退院許可を出す。疑似患者の平均入院期間は 19 日間。

2:これに反応した医療機関は、ローゼンハンが送り込む疑似患者を特定すると伝える。ローゼンハンはこの提案に同意し、医療機関は新しい患者 193 名のうち、41 名を疑似患者の可能性があり、精神科医 1 名と職員 1 名により、19 名を疑似患者と疑いをかけた。しかしながらローゼンハンも 1 人も疑似患者を送り込んでいなかった。

この調査研究によって、「精神病院施設内において正気と狂気を区別することは不可能であること」そして、「精神病院内において人間のラベリング(決めつけ、偏見)、及び人間性を損なう危険性が存在すること」を結論とした。この研究は精神疾患の診断名を付けるより、特定の問題について地域の精神衛生施設で対応すること、[精神医学](#)従事者の[社会心理学](#)の学習を解決案として提案した。同時に[疑似科学](#)であるとの批判、評価を受けている^[3]

類似する実験[\[編集\]](#)

- [アメリカ合衆国](#)の調査報道者[ネリー・ブライ](#)は、[1887 年](#)に精神疾患のふりをして精神病院へ入所。施設内の劣悪な環境を報じた。調査結果は、『[狂気の家](#)の 10 日間([Ten Days in a Mad-House](#))』として出版
- [2008 年](#)、[BBC ホライゾン](#)『“How Mad Are You?”』制作。5 名の過去に精神疾患と診断を受けた人物と、5 名の過去に精神疾患の診断を受けたことが無い人物合わせて 10 名の生活様子から、3 名の精神疾患診断の権威が過去に精神疾患と診断を受けた 5 名を特定する科学[ドキュメンタリー](#)^[4] 専門家は、全 10 名中、2 名を特定、1 名を誤診、2 名の診断経験を持たない人物を診断を受けたことがあると誤診^[5]